

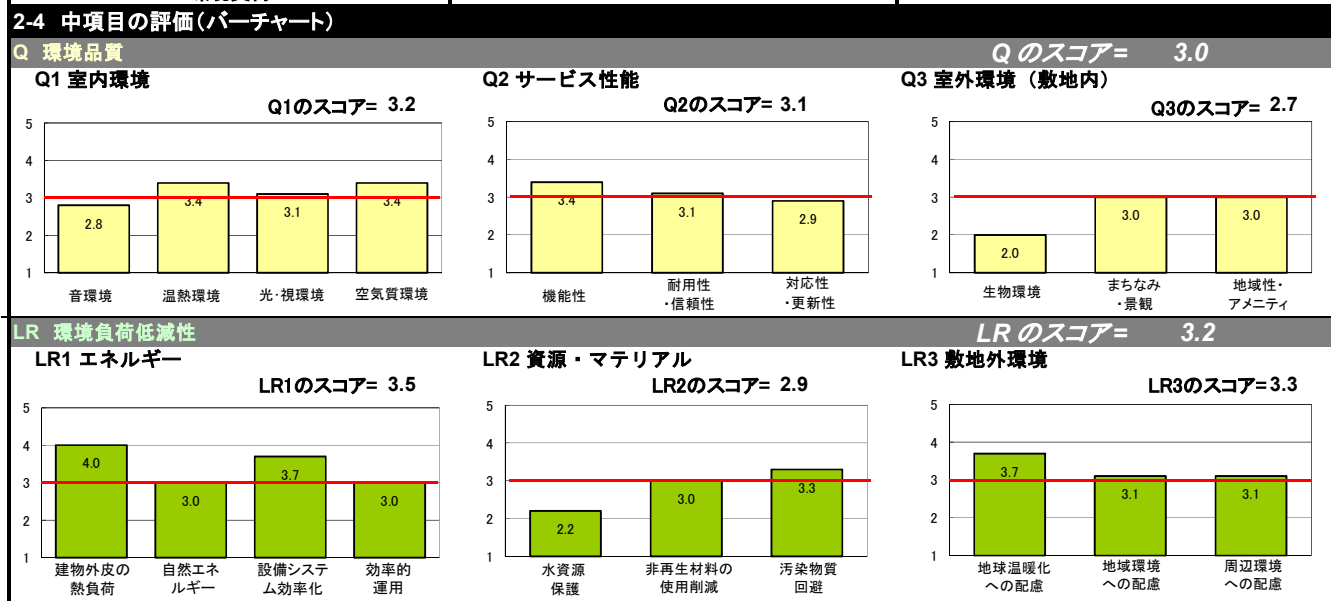
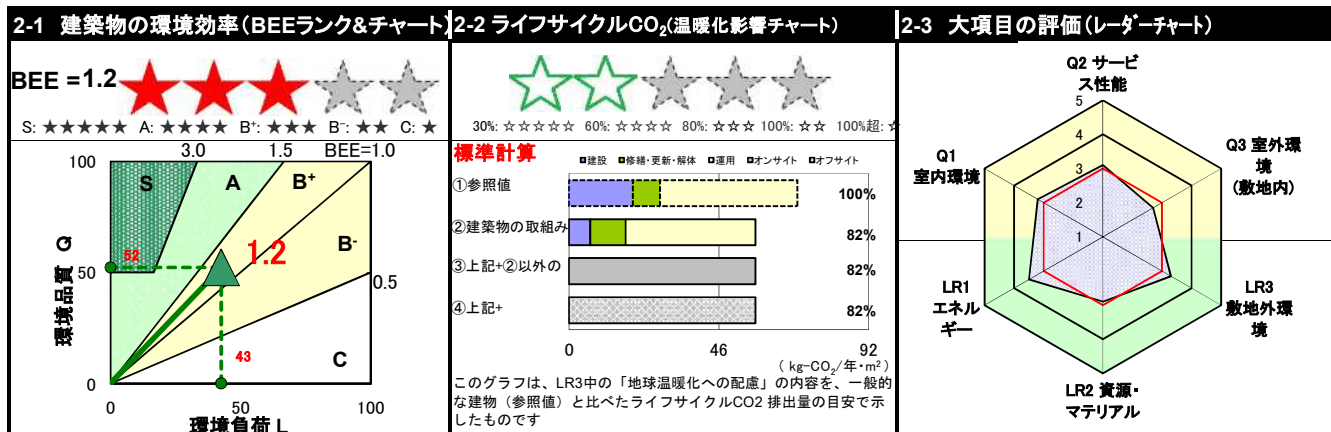
川崎市建築物環境配慮制度受付番号 22008

建築物名称	川崎市宮前区小台1丁目計画新築工事
建築主	三菱地所レジデンス株式会社 執行役員 第二計画部長 浦手 健司
建築物の所在地	川崎市宮前区小台1丁目5番6
設計者氏名、建築士事務所名	鈴木 鉄也 木内建設株式会社 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	9,766.63㎡
用途	共同住宅
構造	鉄筋コンクリート造
階数	地上5階、地下1階
工事完了予定年月	令和6年11月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	太陽光発電

## 評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	川崎市宮前区小台1丁目計画新築工事	階数	地上5F、地下1F
建設地	神奈川県川崎市宮前区小台1丁目5番6	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域、準防火地域	平均居住人員	415 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年11月 予定	評価の実施日	2022年4月25日
敷地面積	3,895 m <sup>2</sup>	作成者	木内建設株式会社
建築面積	2,068 m <sup>2</sup>	確認日	2022年4月25日
延床面積	9,767 m <sup>2</sup>	確認者	木内建設株式会社

外観パース等  
パースの公表を希望される場合は  
図を貼り付けてください



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高点のスコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>緑の保全・回復(G)</b>		<b>Gの平均点</b>	<b>2.8</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	自生種や野生小動物に配慮した植栽計画とし、生物環境保全に努めている		
2 まちなみ・景観への配慮	周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させている	2.3/4.3	2.6
3 敷地内温熱環境の向上	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている		
3.2			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	0.5/0.8	3.0
<b>地球温暖化防止対策の推進(W)</b>		<b>Wの平均点</b>	<b>3.1</b>
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能	断熱等性能等級4相当		
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備		4.4/6.2	3.6
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	自生種や野生小動物に配慮した植栽計画とし、生物環境保全に努めている		
3 敷地内温熱環境の向上	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	1.1/2.3	2.3
3.2			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4相当		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93	3.6/5.0	3.6
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	リサイクル資材を使用		
3 3.2 フロン・ハロンの回避	ノンフロン断熱材を採用	2.7/4.7	2.9
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	0.5/0.8	3.0
<b>資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)</b>		<b>Rの平均点</b>	<b>3.2</b>
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	劣化対策等級3相当	0.3/0.5	3.5
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護			
2 非再生性資源の使用量削減	リサイクル資材を使用	2.2/4.0	2.8
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制	ディスプレイを設置	0.3/0.4	4.1
<b>ヒートアイランド現象の緩和(H)</b>		<b>Hの平均点</b>	<b>3.0</b>
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出	自生種や野生小動物に配慮した植栽計画とし、生物環境保全に努めている		
3 敷地内温熱環境の向上	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	1.1/2.3	2.3
3.2			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4相当		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93	3.6/5.0	3.6
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善	豊富な植栽を計画し、温熱環境の向上に努めている	0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.0**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
<b>建設段階</b>			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数	劣化対策等級3相当	0.1/0.1	5.0
<b>修繕・更新・解体段階</b>			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.7/1.2	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
<b>運用時のエネルギー</b>			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制	断熱等性能等級4相当		
2 自然エネルギーの利用			
3 設備システムの高効率化	BEI=0.93	3.6/5.0	3.6
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート		実施設計段階				建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目				評価点	重み係数	評価点	重み係数		
	G	W	R	H	環境配慮設計の概要記入欄					
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境							0.40		-	3.2
1 音環境						2.0	0.15	3.2	1.00	2.8
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.50	3.0	0.50	
1.2 遮音						1.0	0.50	3.4	0.50	
1 開口部遮音性能						1.0	1.00	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能							-	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					Lr=45		-	4.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)					Lr=50		-	4.0	0.20	
1.3 吸音							-		-	
2 温熱環境						2.0	0.35	4.0	1.00	3.4
2.1 室温制御						3.0	0.50	4.0	1.00	
1 室温						3.0	0.63	-	-	
2 外皮性能		W			<住居>住宅性能表示基準「5-1断熱性能等級」における等級4相当	3.0	0.38	4.0	1.00	
3 ゾーン別制御性							-		-	
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						2.0	0.25	3.5	1.00	3.1
3.1 昼光利用						1.8	0.30	4.0	0.50	
1 昼光率					<住居>昼光率:2.0%以上	1.0	0.60	5.0	0.50	
2 方位別開口							-	3.0	0.30	
3 昼光利用設備		W				3.0	0.40	3.0	0.20	
3.2 グレア対策						2.0	0.30	3.0	0.50	
1 昼光制御		W				2.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度						1.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	3.3	1.00	3.4
4.1 発生源対策						4.0	0.60	4.0	0.63	
1 化学汚染物質					<共用><住居>全面的にF☆☆☆☆の建材を採用	4.0	1.00	4.0	1.00	
4.2 換気						3.0	0.40	2.3	0.38	
1 換気量						3.0	0.50	3.0	0.33	
2 自然換気性能							-	1.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮						3.0	0.50	3.0	0.33	
4.3 運用管理							-		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視							-		-	
2 喫煙の制御							-		-	

Q2 サービス性能					0.30	-	-	3.1	
<b>1 機能性</b>					2.5	0.40	3.8	1.00	3.4
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>					3.0	0.40	5.0	0.60	
1	広さ・収納性								
2	高度情報通信設備対応			<住居>Gbitクラスの通信が利用可能	3.0	1.00	5.0	1.00	
3	バリアフリー計画								
<b>1.2 心理性・快適性</b>					1.0	0.30	2.0	0.40	
1	広さ感・景観						3.0	0.50	
2	リフレッシュスペース				1.0	1.00	1.0	0.50	
3	内装計画								
<b>1.3 維持管理</b>					3.5	0.30			
1	維持管理に配慮した設計			防汚性のある床材の採用、段差のない設計等	4.0	0.50			
2	維持管理用機能の確保				3.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>					3.1	0.30			3.1
<b>2.1 耐震・免震・制震・制振</b>					3.0	0.50			
1	耐震性(建物のこわれにくさ)				3.0	0.80			
2	免震・制震・制振性能				3.0	0.20			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>					3.5	0.30			
1	躯体材料の耐用年数	R		住宅性能表示基準「3-1劣化対策等級」における等級3相当	5.0	0.20			
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R			2.0	0.20			
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		耐用年数の長い、フローリングやビニルクロスを採用	4.0	0.10			
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R			3.0	0.10			
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		主要な用途上位3種のうち、2種類にB以上を使用かつEは不使用	5.0	0.20			
6	主要設備機器の更新必要間隔	R			2.0	0.20			
<b>2.4 信頼性</b>					2.8	0.20			
1	空調・換気設備				3.0	0.20			
2	給排水・衛生設備				1.0	0.20			
3	電気設備				3.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			耐震クラスはAクラス	4.0	0.20			
5	通信・情報設備				3.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>					3.2	0.30	2.8	1.00	2.9
<b>3.1 空間のゆとり</b>							2.6	0.50	
1	階高のゆとり						3.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ						2.0	0.40	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>							3.0	0.50	
<b>3.3 設備の更新性</b>					3.2	1.00			
1	空調配管の更新性				3.0	0.20			
2	給排水管の更新性				3.0	0.20			
3	電気配線の更新性				3.0	0.10			
4	通信配線の更新性			仕上げ材を痛めることなく通信配線の更新、修繕が可能	5.0	0.10			
5	設備機器の更新性				3.0	0.20			
6	バックアップスペースの確保				3.0	0.20			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						0.30	-	-	2.7
<b>1 生物環境の保全と創出</b>				G	W				2.0
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>				G					3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>									3.0
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>									
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>				G	W				

